

門司・若松市民会館
第3回芸術文化施設指定管理者検討会 会議録

- 1 開催日時 令和6年10月10日(木) 13:00~16:45
- 2 場 所 北九州市役所本庁舎10階 10C会議室
- 3 出席者 (検討会構成員) 井上構成員、井端構成員、小竹構成員、
小林構成員、和田構成員
(事務局) 都市ブランド創造局総務文化部文化芸術担当課長、
施設係長、担当職員

4 会議内容

- 当日の配布資料・議事次第等について、事務局より説明。
- 検討会の位置づけ及び選定基準、採点の注意事項について、事務局より説明。
- 応募団体から提案概要に関してプレゼンテーション及びヒアリングを実施。

1. 門司若松・地域みらいネットワーク共同事業体

(構成員) 共同事業体を構成する3団体が連携した実績はあるか。

(応募団体) アクティオ(株)と(株)東急コミュニティーは、全国12施設でJVを組んだ実績がある。フロムワンには、アクティオ(株)が門司港レトロ口の指定管理を15年間担っていた頃にイベントや式典の運営をお願いした。

(構成員) 門司地区について、市民の動き等は熟知されているという理解でよろしいか。

(応募団体) はい。若松に関しても、北九州市の観光総合案内所を管理運営した経緯から地域ボランティアと共に活動した実績がある。

(構成員) 市民会館で実施する事業は、演奏イベント、付随した会議、練習室や音楽室の使用などで、様変わりしにくい。特に自主事業について、地域性、利便性を活かしたものがあれば教えていただきたい。若松でないとできないもの、門司の方がいいというものがあれば。

(応募団体) どちらも港町で海が近く、交通の要となった場所であり、それぞれの歴史など共通点を生かした事業を行いたい。特に門司は観光地として非常に人気のあるエリアであり、レトロ地区だけにとどまらず、周辺にある老松公園や関門トンネルの歴史を深掘りするなど。

若松では、恵比寿神社、若戸大橋、五平太ばやし、高塔山のあじさい祭りなど景観も活かした取組みを行いたい。

(構 成 員) 門司と若松では活用する年齢層の違いはあるか。

(応募団体) 少子高齢化が全国で進んでいるが、門司・若松は比較的高齢者の方の利用が多い。高齢者の利用を増やすことはある程度可能だが、若年層やファミリー層を増やすためにも、門司にはマンションが多く建っていることから、市民会館はファミリーでも遊びに行ける場所と認識してもらえるよう、提案書に記載している芸術祭では、赤ちゃんに出してもらおうハイハイレースなどお子様たちで楽しめる催しを行いたい。また、例えばおじいちゃんおばあちゃんがカラオケに出るときに、お孫さんが、おじいちゃんが歌うのなら帰省の時期を市民会館まつりに合わせて帰ろうかと思えるような間接的な観光にも取り組めればと考えている。

(構 成 員) アートクラブについて、どのような層をターゲットにして展開するか、具体的なプランを教えてください。また、アーツカウンシルの役割に関して、例えば地元文化団体のアーティスト等とのネットワークを活かしたコーディネートの役割が期待されると思うが、どのように進めていくか教えてください。

(応募団体) アートクラブの対象とする層については、現在利用されている高齢者の方を第一ターゲット、その次に若年層を考えている。特に若年層については、学校の行事でしか市民会館を利用したことがない方が多いと考え、SNSを通じて若者の皆さんに利用していただきたい。提案メニューに記載の通り、ダンス会場としての使用やドラムなど楽器の活用等、今までにないようなものを発信して行って、若者の皆さんが利用しているインスタグラム、タイムリーなものに関してはX等で情報発信をして若年層を取り込んでいきたい。

アーツカウンシルについては、演劇ワークショップや、音楽であればジャズミュージシャンなど、また、アートの方でもアーティストさんとの繋がりがあり、ご協力いただくことができる。実際にプロデューサーやアドバイザーになっていただいたというネットワークがある。東京と大阪でもすでに実績があり、北九州市内だけでなく東京や大阪とも繋がって、包括的に連携できる仕組みを作っていきたい。

(構 成 員) 若松市民会館は、JRの駅は目の前にあるが、鹿児島本線でないので行きづらい。イベントの魅力等で来てもらうのも一つの方法だが、交通の不便さを補完するものについて考えはあるか。

(応募団体) アクセスについては、自家用車やバスを想定している。高齢者の方はバスを利用する機会が多く、バス停から歩くことにはなるが、公共機関を動かすことは難しい。訪れたいくなるような魅力的なイベントを実施し、情報発信をしていきたい。

北九州市内以外からの来訪者に関しては、両施設とも北九州空港にパンフレットラックが設置されているが、広報活動の一環としてイベント会場までのアクセスの仕方、例えば北九州空港から交通機関と所要時間の情報発信を行うなど、情報という観点からサポートしたいと考えている。

(構成員) 立地の面は気になっており、利用者など気にされる方は直接問い合わせるだろうが、市民会館自体を知らない方はそうはならない。そうした方々をターゲットにしたとき、どのような方法で情報発信を考えているか。SNS等ネットの活用が主流だが、手元に来ると、自ら取りに行くのは違う。

(応募団体) 私たちの提案の中では、接点をふやすことを掲げており、事業展開で接点を増やす方法もあるが、目に留めていただくことも大事だと考えている。デジタルでの情報発信も大事だが、紙媒体も根強く残っており、チラシ等を営業活動として配布したり、設置場所を増やしていきたい。また、私どもだけでは足りない部分に関しては、自治体の皆様と一緒に発信力を高める工夫も進めていければと考えている。

また、地域のお祭り等にも市民会館として参加させていただくなどして、地域の皆さんの生の声を聞き、例えば本当は行きたいけれど行きづらいとか、こんなことをしてくれたらという声をヒアリングして参考にし、今後5年間のうちに展開していきたい。

2. 共同企業体グループA2K

(構成員) 若松市民会館は周辺をよく利用させていただくが、第2駐車場がもうすぐ閉鎖されるとのことで、代替する近隣施設や付近の駐車場を利用するよう案内するという話があったが、具体的に働きかけられる事業者等はあるか。

(応募団体) 若松駅の隣にある有料駐車場の案内等を考えている。また、市の方でも、近隣に駐車場を準備いただけるとも伺っているので期待したい。

(構成員) 人員配置計画表について、門司も若松も比較的高齢の方で構成されているが、どの業界も人材が不足している現状を受けて、雇用獲得の努力について教えていただきたい。

(応募団体) 高齢者の雇用状況に関して、例えば一つのポストを2人でシェアをすることで、働く日数が少なくなったり、急に病気になって休む時もカバーできるため、負担の軽減に繋がる。

(構成員) 障害者雇用や若い方の雇用の促進への取り組みはどうか。

(応募団体) 障害者雇用については、現在も雇用している。人物本位で採用している。

(構成員) 指定管理をされてきた19年間で培ってきた事業者としての強みが

あれば教えていただきたい。例えば、新規の事業者では初年度から着手することは難しいだろうというような19年間培ってきた技術や負けない部分は。

(応募団体) 我々は地域密着ということで自主事業も展開しており、地域の方との繋がりがあるが、新規の事業者では最初から行うのは難しいのではないかと考えている。設備面においても改善パトロールを実施しており、車椅子やアイマスクを利用して障害者の立場に立っての改善も実施している。このような改善の姿勢も、培われたものと考えている。

(構成員) 提案書に記載のある利用の拡大について、これまで利用のなかった団体、個人、アーティストの方たちに来ていただいてリピーターになっていただくことが引き続き大事になると思うが、具体的にどういう形で実現していこうとされているのか教えていただきたい。

(応募団体) アンケートを毎年行っているが、リピーターの方が8割、新規の方が2割という現状がある。新規の方を獲得する方法として、情報発信を行う、来られた方からご紹介いただくなどを考えている。

(構成員) 情報発信はどういった形で行うのか。

(応募団体) 市民会館を知っていただく。どういう行事を行っているかお知らせする。

(構成員) ツールはどう考えているか。

(応募団体) ホームページ、市政だより、新聞等を考えている。
市民会館だよりも刊行している。

(構成員) 若い方が利用するSNSの活用も考えているか。

(応募団体) 高齢者の利用が多いため、紙ベースのものにしている。時代の流れもあるので若い方向けにXなど活用していきたいし、現在も活用している。

(構成員) 1つ目の提案事業は、障害者の方が企画運営するものか。また、2つ目の提案事業は、市民から公募して企画するとあるが、選定は事業者で実施するものか。

(応募団体) 市民会館側でも選定したいが、市に採用されなければならないので、市と相談しながら進めたい。施設の設置目的に合った事業を選定したい。

1つ目の提案事業については、団体から講師を派遣していただく等合理的配慮の勉強をきっかけに、障害者の方にも広く平等に利用する機会を提供したいと考えたもの。団体へ相談をしており、喜ばれている。

(構成員) 2つ目の提案事業については、市民会館の利用者は高齢者が多いとのことだったので、できれば若年層に向けて新しい企画提案がされて、市民会館を普段利用する機会のない方たちがたくさん集えるきっかけになる事業になると希望が持てると思った。

(応募団体) 我々もそうしたきっかけになればと考えている。

(構 成 員) 市内の音楽関係や吹奏楽関係で、小学生から大人まで複数の団体を擁して活動しているが、若松市民会館は高い頻度で利用している。大ホール、会議室、小ホールなど上手に併設されているため非常に利用者にとって便利がいい。門司の方はなかなか使用する機会がない。現在、市内の団体で、年間を通して若松市民会館を利用している団体はどれくらいあるか。

(応募団体) 中学校の吹奏楽部の方には多くご利用いただいている。

(構 成 員) 特に一般の団体では練習場所がないということで、市民会館を利用する方が多い。その中で一番困るのは楽器置き場であり、楽器置き場がなくて非常に困っている区もあるが、若松市民会館はしっかりと対応してくれており、非常に助かるという声は聞く。ぜひ現在の利用方法を変えず皆さんによいものを提供していただくよう、地域の文化向上に役立てていただければありがたい。

若松市民会館では、令和7年度から空調工事により使用できない期間があるとのことだが、すべて利用できないのか。

(応募団体) 9月から11月までの3か月間は、空調の系統によってはホールだけでなく、使用できない会議室が一部ある。第2練習室や第3練習室は利用可能である。

(構 成 員) この工事は空調設備だけか。

(応募団体) 工事は空調だけであり、市民会館では大ホール、小ホール、第1練習室は使用できない。

(構 成 員) 非常に使いやすいホールでもあり、駐車場もすごく便利が良く、利用者にとってメリットの一つである。裏側の駐車場は狭いが、第2駐車場は広いため、催し物を聞きに来てもらうとすごく助かる。利用者にとってメリットがなくなっていくというのは非常に寂しいことなので、ぜひその辺は考えていただきたい。

(構 成 員) スタッフは、両館合わせて何名いるか。

(応募団体) 合計で12名である。

(構 成 員) 意外に少ない印象を受けた。

(応募団体) 夏季など行事が多い場合はさらに人数が必要になるが、残業や応援により対応している。

(構 成 員) 門司も若松も海辺に面しており、最近地震も多いことから、防災の観点から今まで以上に危機管理としての取組みがあれば教えていただきたい。

(応募団体) 若松の場合は垂直移動が基本となる。門司も同様。管理マニュアルを整備している。地震、火災、病気、怪我などを想定したもの。

(構 成 員) 防災訓練は実施しているか。

(応募団体) 年1回実施している。

3. 株式会社ケイミックスパブリックビジネス

(構成員) 北九州地区において、黒崎ひびしんホールやソレイユホールを運営管理されており、実績はすでにあると思うが、門司・若松市民会館は規模が小さくより地域密着型のものになる。地域との連携などの工夫が必要になると思うが、すでに全国で展開されている中で、より地域密着されているところでの実績はあるか。規模の小さい施設での独自の工夫を教えてください。

(応募団体) 先ほど全国で運営管理している数を申し上げたが、劇場と、市民活動に根づいた施設との違いのお話かと思うが、当社は後者の方が運営管理している施設数としては多い。特に、人口規模が2万人台から3万人位の自治体の唯一のホール施設を運営することが非常に多い。九州の中では豊後大野、宇佐、日田でも事業を活発にやっている。

門司・若松市民会館は、いずれも政令指定都市の一つの区を代表するホールであって比較できないのは十分わかっているが、その地域に根差した運営が求められており、地域の中に入っていないとホール施設であっても運営していけないことは会社として身をもって分かっているつもりである。

(構成員) 地元のアーティストを積極的に引き上げていって市民との橋渡しをしていきたいという素晴らしい考え方だが、エリアとして門司や若松のローカルな分野に携わっている実践者、アーティストとのネットワークはどのくらいあるのか、もしくは、今後どのようにネットワークを築こうとされているのか具体的に教えてください。

(応募団体) ソレイユホールやひびしんホールでは、すでに地域のアーティストと連携して事業を展開させていただいており、そこから派生して、アーティストに各会館で事業のお手伝いをしていただいたり協働していくことが挙げられる。

運営を開始してからは、様々な形で地域の団体やアーティストとお知り合いになってご紹介いただいたりすることからスタートすると思うので、我々としては地域のアーティストが発表したり、市民へご紹介したりできる機会を作っていくことが大事と考えている。

現在までひびしんホール等で実際に行ってきた方たちも含めて北九州市全体で考えることも一つだし、運営を開始してから新たに作ったコミュニケーションやコミュニティで参加していただく機会を作ることによって重点を置きたい。

(構成員) 館長会議は、どれくらいの規模や回数で行っているか教えてください。

(応募団体) 館長会議は、年に3回実施しており、弊社が運営する全施設の館長を1ヶ所に集めて会議を行っている。並行してエリア会議を、九州管内の館長を集めて情報共有等を行っている。

会議では、会社から指示を出すものもあれば現場からの要望もあるが、横との情報交換が最も大きい意味合いと捉えている。他館ではどういう形でイレギュラーに対応したのか、そういったものを共有できる仕組みをインフラとして整えている。

(構成員) 館長会議の成果はどうか。

(応募団体) 北九州市の場合は文化施設が複数あるが、地方のホールはその自治体の中に一つしかないものもあり、その施設をその地域の方々に、これまでは情報もないまま独自のやり方で運営されてきたというのが実態だと思っている。成果としては、他館の事例を学ぶことによって、管理運営のレベルの底上げに大きく寄与していることと、施設の過去の運営状況と現状を比べると随分変わってきたと自己判断ではあるがそのように思っている。事業の内容も随分変わってきたと捉えている。

指定管理者制度には3年や5年という時期に更新があるが、更新率は9割を超えている。この更新率の高さが、当社の運営に満足いただけるサービスが提供できている結果であると考えている。

(構成員) 提案事業の中に、部活動の地域移行を視野に入れた若者支援事業を謳われており、これらはすでに令和7年度を目標に動いている状況ではあるが、具体的な方策について考えがあれば教えていただきたい。

(応募団体) 市民会館では文化芸術に携わる部活動を推進していくものと考えており、現在考えているのは、吹奏楽部や合唱部など音楽等の様々な部に参加している子たちが、しばらく部員数の少なさによって指導を受けられなかったり発表の場がなかったりということに対して、それらのジャンルのプロの方をお呼びして、回数は難しいところがあるが、指導を受けたり発表の場を提供するというもの。

我々が管理している施設においても、部活動の地域移行を受けたものではないが、市民会館やホールで地域の各学校に集まっていただいて、プロの指導を受ける機会には実際に設けており、そのノウハウを活かして門司・若松においても同じように部活動の地域移行に寄与したいと考えている。

(構成員) 学校を離れば、部活動の中学生は危機管理を含め、保護者もいるし、或いは経費といった問題点が出てきている。非常に難しい問題を含んでいる地域移行の部活動をラインナップに上げており、我々にとっては嬉しいことだが、実際行うのは大変と危惧しており、どの程度まで進んでいるのか質問したもの。

(応募団体) 危機管理には非常に苦慮しているが、学校のご理解と親御さんも含めた協力が必要である。ホール文化施設でこういった事業をするにあたって2種類あり、全部の学校に声掛けをして集まっていただく形と、案内だけして参加できる児童や生徒の方だけ参加していただくという形があり、門司や若松の各地区ではどちらがいいかということは相談しながら進めていきたい。危機管理の観点では、我々が施設運営をするものと同レベルの危機管理をしていくので、これまで経験したこと

を十分に活かして進めたい。

- 構成員は、提案概要のヒアリングと質疑応答を受けて各自評価を行い、その後、構成員全員で意見交換

(構成員) 3社において実施する内容がほとんど同じであり、門司市民会館も若松市民会館も催し物はそう変わらないし、変わったこともできるわけでもなく、特にひどいこともないため3点を中心として採点した。

一番よい点数をつけた団体はA2Kである。19年間継続して、きちんと管理運営しており、利用者からの苦情もほとんど聞いていない。融通が利くし対応もよく評判が良い。その他2団体については悪いとか良いという意見はない。

(構成員) 聞いていて楽しそうに感じたのは門司若松地域みらいネットワークだった。プレゼンが上手で引き込まれながら聞いていた。A2Kは19年間の実績があり、その特徴を問うような質問をあえてして反応を見させてもらった。ケイミックスは会社法人を独立させてパブリック事業の方に専念されている。任せてもきっちりやり切れるだろう。ひびしんなどで実績がある。

地域性を考えるとA2Kは19年間の実績もあり、よく市民会館を利用される方の意見を聞くと、使いやすく、料金が安い点も魅力とすることで良い声しか聞かない。地域密着型で利用者の効用を重視して標準点を4点にして評価した。

(構成員) 最も評価した団体はケイミックスである。門司若松・地域みらいネットワークは意欲的な提案が見られた点を評価した。A2Kは19年間地域に根差した取り組みを続けてこられたのが強みであり、誠実に取り組んできたことが伝わった。ただ、新しい層を取り込む工夫が弱いように感じた。高齢者を念頭に置いた事業は偏りを感じた。スタッフも高齢化しているので若返りが心配材料としてある。ケイミックスは、公共文化施設に求められる役割を十分に理解されており、安定感のある提案だった。部活動の地域移行という大きな社会的課題を提案書に明記されている点がチャレンジングであり、評価できる。火野葦平資料館のような地域の宝を子供たちにアートでつなげる形で身近に感じてもらうという取り組みも評価できる。

(構成員) 3社のうち、門司若松・地域みらいネットワークとケイミックスの印象の残り具合が違った。結果的にケイミックスが最も評価が高かった。特に部活動の地域移行に言及している。一方でA2Kが手堅いというのも分かる。門司若松地域みらいネットワークはプレゼンが上手だと感じた。団体それぞれ特色があると見受けられた。

(構成員) A2Kが最も高い点数となった。

門司若松・地域みらいネットワークは、プレゼンは素晴らしかったが、未知数な点が多いと感じた。新たに提案されたアートクラブも未知数の部分があり、たくさんの会員が入られるというのは見込めない

と思った。新しい提案の柱に掲げられており不安に感じたことから3点とした。

ケイミックスはプレゼンもわかりやすく、実績もあり、全国展開されているとのことで、安定的な水準で提案されていた。ただ、全国展開に関して、館長会議の質疑では水平性の良さがある一方、実際に具体的に進めるのは事業部が行うと言った点が気になった。地域密着型が特に若松、門司で大事と思ったときに、いろいろ意見が出て全国展開を実施している事業部の人たちが考えて提案する方法は違うのではないかと思った。

A2Kに関しては、未知数のところはあるものの、新しい提案で市民企画を活用してみようとか、障害者の人たちが企画して実施していく方が地域の人たちの意見を吸い上げになっていくのではないかと思った。特に若松と門司は立地が悪い。質疑でもお迎えバスは難しそうだったので、地域の人たちが良いと思う施設にするほうが良い。北九州市民の人が、ホールがあって何かできるかもしれないと思えるようになる方が積み重なると思ったので、A2Kを高評価とした。

(構成員) 補足としてここに載っていない視点になるが、納税証明書を提出いただいており、北九州市への納税という観点で考えると、A2Kの場合は、地元企業のケンビと朝日建物管理は北九州市に納税しているが、ケイミックスは本社が東京なので税金は東京の方に発生する。地元で事業をしているのに本社が異なるため本社での納税となっている。

(事務局) 集計表には反映していないが、市内企業や準市内企業の場合は地元優遇の加点がある。

(構成員) そういう視点を職業柄考えてしまうので、見えないところの波及効果を含めると、地元企業を活用される機会が多い方がありがたい。地域の活性化という観点は見えないところではあるが。

(事務局) お話のあった視点もあるので、市内、準市内、市外に分けて加点している。

○ 以上の意見交換を踏まえて評価を再度集計し、構成員に発表

(構成員) A2Kとケイミックスが総合得点で同点となる場合、検討会としての結論はどうなるのか。

(事務局) 検討会として最終的な意見を決めていただきたい。

(構成員) 同点の場合はどうなるか。

(事務局) 検討会としてのご意見をいただいて、それを鑑みて市として決めていくことになる。「同点の場合は議論していただく」とマニュアルにも書いてあり、現在、同点となっているので皆さんで議論していただき

たい。色々なご意見があると思うので、皆さんそれぞれの視点からお話いただきたい。

(構 成 員) 皆さんの得点をみるとA2Kが三名、ケイミックスが二名であり、A2Kと判断する。

(構 成 員) 地域での実績があつて評判が良いということと、19年間の実績があること、税金の面について、すでに地元優遇の加点はされているが、今回の表立った評価には入っていないが、地域雇用という波及効果等、目に見えない貢献性は高いということからA2Kとしたい。

(構 成 員) 20年近い実績があり、市民に向き合つてこられた点は評価すべきと感じるが、そこから変わる要素が見えないと感じた。これまでとは違う風があつたほうがよいのではという気持ちがある。わざわざそこに行こうと思つてもらえる取組みが見えたのがケイミックスであり、新しい人たち、若い人たちを取り込むものであつた。どちらが選ばれてもきちんと運営されるのだろうとは考えている。

(構 成 員) A2Kが三名、ケイミックスが二名という比較が分かりやすく、先ほどの指摘も加味したうえで取り組んでもらえればと考えている。

(構 成 員) 確かに今一人が言われた弱点はあつたと思うが、長年の実績に基づいて、安定的な管理運営をされてきたことを踏まえ、今回このような討議がされたこともぜひ伝えていただいて、さらに地域密着で頑張つていただけたらと思うのでA2Kとしたい。

(座 長) 3名の方がA2Kを推されていることから、検討会としてはA2Kを評価するという結論とする。

○ 意見交換を行った後、最終的な取りまとめを行い、検討会を終了した。